

第2回京都府津波浸水想定検討委員会の開催結果概要について

1 開催日時 平成27年9月14日（月）午前9時30分～11時00分

2 場 所 京都府職員福利厚生センター3階第1会議室

3 出席委員 林委員長、井合委員、鈴木委員

4 結果概要

(1) 第1回津波浸水想定検討委員会の開催結果等について（資料1、参考資料）

- ・ F49断層が参考資料2の拡大図のどのあたりに該当するのか、図を重ねあわせて確認しておいたほうが良い。
- ・ 各断層について、正断層、逆断層、横ずれ断層のどのパターンに該当するのか整理しておくこと。
- ・ 参考資料の同時地震の津波高計算結果について、同時発生のケース（青）が上に描画されているが、単独ケース（赤）とほぼ同様の結果であるため比較できない。単独ケースを上にも描画した図も並べて示したほうが良い。

(2) 最大クラスの津波の設定等について（資料2）

- ・ F49断層を見ると、3つのセグメントのうち、両端と中央ですべり方が反対方向になっている。珍しい形なので、断層の設定経緯について国に確認を行うこと。
- ・ また、その結果隣り合うセグメントが反対方向に波を起こすことで津波高が相殺しあい、部分的に過小評価になっていないかを確認する必要がある。
- ・ 痕跡データについて、信頼度A、Bのみを使用することは問題ないが、信頼度C以下の痕跡についても参考に記載しておいたほうが良い。
- ・ 過去に発生した津波のシミュレーションを行っているが、再現性の確認は行っているか。
→ 京都府の痕跡データにおいてシミュレーションの再現性の確認計算を行った結果、シミュレーションによる津波高は痕跡値と近似していることを確認している。

(3) 地形モデルの作成と現地踏査結果について（資料3）

- ・ 河川堤防が壊れると下流にとっては浸水面積が広がるが、遡上としては上流まで行かなくなるので、上流の浸水面積は狭くなる。考え方を整理して検討した方が良い。
- ・ 河川流量について、流量データがない場合でも、水位データがあれば、流速・流量を計算することは可能なので、各河川の詳細データの有無や河川幅等を踏まえて分類分けを行い、重要な河川や大きな河川については流量の計算を行ってはどうか。
- ・ 砂州の削除については国のガイドラインに従うものとし、詳細については鈴木委員と協議の上、設定を行うこと。

(4) 震度の想定について（資料4）

- ・ 事務局案で了承